言語研究の本質を求めて

―○○○○○○○―

埼玉 太郎

【キーワード】

社会的力関係，上位者聴者制約，視点の捉え方，語用論的強化，言語内部構造における拡大解釈・適用

【要旨】

本稿は，

2行あける

1．はじめに

　本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。

2．先行研究

　本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。

3．調査及び分析結果

3-1　調査方法[[1]](#footnote-1)

　本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。

3-2　分析結果

　本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。

3-2-1　性別による分析結果

　本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。

3-2-2　年代別による分析結果

　本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。

4．おわりに

　本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。本会は，埼玉大学における言語研究の発展に資することを目的とし，理論言語学から言語教育実践まで，幅広く学術情報を発信する。

参考文献

山田太郎（1997）『○○○』大修館書店

山田太郎・鈴木太郎（1977）『○○○』くろしお出版

山田太郎（2001）「△△△」『○○○』鈴木太郎（編），朝日出版，pp.44-79.

山田太郎（2005）「現代日本語における○○の意味拡張―概念的中心性と機能的中心性」『日本語文法』12-1，pp.1-17.

Norrick, N. R. (2000). *Conversational narrative: Storytelling in everyday talk*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

Spitzberg, B. H., & Cupach, W. R. (1984). *Interpersonal communication competence*. Beverly Hills, CA: Sage.

（埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程）

1. 今回の調査では，年代別，性別の分析のみならず，地域別の差も調べるため，郵便で調査相手に調査票を送り，回答記入後に返送する郵送法を採用した。 [↑](#footnote-ref-1)